

父母連ニュース

草加市保育園父母会連合会 機関紙
2007年度 第5号/2008年1月12日発行

発行責任者
阿部 927-2356 ・ 高山 943-2616



表面：第16回草加子育てのつどい、講演・パネル展示報告、参加者感想
裏面：子育て団体交流会報告

第16回草加子育てのつどい特集号！

『第16回草加子育てのつどい』大成功ありがとうございました！

第16回草加子育てのつどい実行委員長 杉森里美

さる12月16日(日)10:00~12:00、獨協大学35周年記念館にて第16回子育てのつどいが行われ、大勢の方にご参加いただきました。誠にありがとうございました。清水先生の講演はいかがでしたでしょうか？明日からの子育てが肩の力を抜いて楽しくやっていけるような元気をもらえたのではないのでしょうか。弘前ひさし先生のパネルシアターでは子どもたちが目を輝かせニコニコしながら観ていたり、廊下まで楽しそうな声が聞こえてくるのを感じると、私達実行委員も「企画してよかったな～」と感ずることができました。またポスターセッションでは、今回も各参加団体が工夫を凝らした「見やすい」「楽しい」ポスターパネルを展示してくださいました。重ねてお礼申し上げます。「子育てのつどい」では、次年度以降も父母連をはじめ子育てにかかわる団体の方々と一緒に、楽しい企画を提案していきたいと思っています。これからもどうぞ宜しくお願いいたします。

【清水玲子先生（東洋大学）講演「くう！ねる！あそぶ！こどもたち」報告】

清水玲子先生のお話は、とても優しい語り口で「すう」と体の中に染みこんでくるようにじんわりと響きました。時々私たちの心の中を見透かしているかのように「そうよね、ホントにいやになっちゃうこと、ありますよね」と共感してくださいませんかと思えば、一転して凜とした表情で「でも、そこはさっぱり、きっぱりと子どもに接することが大事です」と力強く示唆してくださいました。発達の視点からの科学的な子どもの行動分析は「そうそう、そうなんですよ！」と思わずうなづけるものばかりで、気がつけば2時間の講演はあっという間に終わってしまいました。

先生のお話には子どもの発達論(1才半の節目、9才の節目)とともに、私たち父母が毎日直面している育児に対する「やさしい労い」と「力強いエール」、そして「社会への強烈な提言」がたくさん込められていました。一部をご紹介します。

・「私は今日、まずみなさんに言いたいんです「毎日ホントにおつかれさまです」と」

・「いまは私たち大人がとても辛い時代です。まさに「くえない、ねられない、はたらけない オトナたち」ですよ」

・「いまの子育ては情報がたくさんあって「どれを選んでも自由なのよ」と言われる一方で、なにか子どもが不祥事を起こせば、それは丸ごと親の責任になってしまう、そんな時代です。だからいまのお母さん、お父さんたちは、私たちの時より大変だなあと思うのです」

・「朝ごはんを食べない子は成績が悪い」と堂々と言われます。だけど、食べさせたくても深夜労働やひとり親家庭等様々な事情があって難しい家庭も多いのです。「どの子どもも朝ごはんが食べられる」というのは、実は社会の責任なんです」

毎日の忙しさの中で漠然と抱いていた不安感や徒労感が一体どこからくるものなのか、それをやさしくわかりやすく解きほぐしてもらったら肩がフツと軽くなり、「さあ、またがんばろうよ」と背中を押されたように感じたのは、きっと私だけではなかったと思います。

(父母連事務局・高山)



【父母連パネル展示報告】

「草加の子育てサポートってどんなものがあるの？」

主に0~3歳児を対象とした草加市で行っている子育てサポートの紹介と、市内の子育てに関する施設をポイントしたマップを展示しました。親子一緒に遊べるサポートでは、児童館やコミセンなどで行っている「乳児と幼児の親子教室」と、子育てスタッフも常駐して育児相談もできる「つどいの広場事業」。保育サポートでは、「一時預かり」「親子別交流事業」。また、障がい児を対象としたサポートや、獨協大学内にある「獨協大学地域と子どものリーガルサービスセンター」の紹介も行いました。調べてみると「知らなかった！なるほど！」と思うサポートがたくさんあります。色々な情報を得て、役立つサポートをうまく使って、楽しく子育てしたいですね！展示内容を父母連ホームページにアップしますので、ぜひご覧ください！

(父母連事務局・中島)



「くう！ねる！あそぶ！こどもたち～からだは食べ物からできています～」

食品の表示偽装や輸入食品の問題がよく報道されています。子どもたちのからだを作っている『たべもの』のこと…食べ物を選べない子どもたちに代わって、親である私たちが食べ物をしっかり選ばないといけない時代なんですね。

そこで父母連では、色々な「食」の問題の中から『遺伝子組み換え食物』について取り上げてパネルにして展示をしました。なお縮小したパネルが父母連ホームページからダウンロードできます。是非ご覧ください！（父母連事務局・伊藤）

【参加者の感想より】

清水玲子先生の講演

- ・ 2歳と5歳の子どもがいるので、大変ためになるお話が聞けました。これから成長とともに変化していく中、親として見守っていく心というものをあらためて実感致しました。感動して涙が出そうにもなりました。
- ・ 日常生活の中で、つい大人の生活に子どもを合わせてしまいがちに事に、今日のお話を聞き考えさせられました。口癖のように「早く～」や、理由も言わずに「ダメ!」「やめなさい」と言うてしまう。時間を少しかけてちゃんとコミュニケーションをとっていききたいです。
- ・ 日々子育てと仕事で疲れ気味だったので、先生の“お疲れさまです”の言葉にとっても癒されました。周りの人にはげましてもらったのは初めてで、来てよかったです。
- ・ お話の内容が共感できる内容で、どこも同じ思いをされているんだと、安心と共に少し自信がついた感じです。今まで自由だった自分が子どもを持ったことで、子育てとは鍛練だと感じていましたが、今、子どもが3歳になり、少しずつ手がかからなくなるにつれて子育てがとても楽しく、日々、子どもとともに学ぶ生活です。
- ・ 子どもと同じレベルではなく、大人としての自覚・忍耐について改めて気づいた思いがしました。
- ・ 清水先生のお話は、とても身近なもので、ドキッとさせられることが多いと同時に、その時の考え方など、とても勉強になりました。親だってそんな立派なものではないから、頑張りすぎる必要はないと思いました。
- ・ 子どもと向き合う必要性。食育の大切さ。日常生活で何気なく行なっている行動が子どもにとってのものすごい影響を与えている。子育てに正解はなく、誰もが試行錯誤しているんだと感じました。
- ・ 朝起きて夜寝るまでの“いやいや”につき合わされ、ヘトヘトの毎日ですが、清水先生のお話で少し肩の力が抜けました。何人育てても、一人一人の個性が違うのに、親はいつも同じ対応をしてしまう。子どもはどんどん成長していくのに、育てている親はちっとも成長できていない気がして、ため息をついてばかりでした。ある知人から““つ””(ひとつ・ふたつ・・・このつ)がつくまでは親を頼り、甘えてくるけど、“歳”という年齢からは自立を求める!”と聞いたことがあります。まさしく!!と思いました。
- ・ 普段言われたことのない「はげまし、がんばりに対する温かい言葉」を最初に聞き片意地張って過ごしてきたな～と我にかえりました。そうそう、私も頑張っているんだ!もっと自信をもっちゃおうと、前向きな気持ちになれました。疲れがたまってくるといい方に目をむけられず、イライラやつあたり。自分にも家族にもマイナスに働いていた矢先の言葉で、うれしく思いました。年のはなれた2人の子どもを育てています。それぞれの発達についての話から、忘れていたこと、改めて気づかされたことがあり、別の視点から子育てをみることができそうです。親である私も成長していきたい。成長していく中では、失敗ばかりですけれど、子どもの失敗ばかり目にやるんじゃないかと、その前に自分の失敗を認めて、お互い経験を増やしていきたいと思えます。
- ・ 1歳半過ぎの子どもたちをよく理解できて、これで笑ってつき合えます。分かっているけど1対1になると力が入ってしまって…。肩の力を抜いて向き合えそうです。
- ・ 親として、20歳をこえてしまった子どもを思い出し、「そうそう」と思いながら聞きました。保育者として、毎日毎日を大切に考えながら子ども達が楽しく「くう!ねる!!あそぶ!!!」させてあげたいと思えました。
- ・ 生活感のある話の内容でよかったです。あーそうだったと、実感もしました。10歳からの10年の子どもとのかかわりは初めて聞いたので、これからの参考になりました。

弘前ひさし先生の牛乳パックシアター

- ・ 子どもと楽しめて、すごくよかったです。園の子どもたちみんなにも見せてあげられたら喜ぶと思えました。
- ・ いつも女性のパネルシアターなので、男性で新鮮でした。とても楽しかったです。参加してとても良かったです。
- ・ 弘前先生のシアターはとても楽しくて、大人もとても面白かったです。自分も保育にたずさわっているので参考にさせていただきます。
- ・ 子どもに負けないうらい夢中で見てしまいました。楽しかった。ただ、『親子であそんじゃお!』という題だったので、親子で何か作ったりするのかな?と聞いていましたが…。
- ・ 牛乳パックシアターは、子どもたちと楽しめて、家でも子どもたちが作りたいという気持ちになったので、一緒に作ってみようと思います。

< 第8回草加子育て団体交流会の報告 > 2007年12月16日 於:獨協大学12:30~15:00
「学童保育の会」「獨協大学地域と子どもリーガルサービスセンター」も初参加
障がいのある子どもない子どもさまざまなスタッフや団体が応援しているよ!

この交流会は、公立保育園だけではなく、家庭保育室・あおば学園・NPO法人さくらんぼ・NPO法人こども広場草加おやこ劇場などの市内の様々な子育てサポート団体と交流をもち、互いの活動や課題を話し合い“手をつないで草加の子育てを良くしていこう!”という目的のもとに、2004年より父母連事務局主催で行っている重要な活動の一つです。

今回は初めて、子育てのつどい開催に合わせて交流会を行い、「学童保育の会」「獨協大学 地域と子どもリーガルサービスセンター」の方々の初参加もあり、幅広い交流ができました。

話された内容の中から、主なものを以下にご報告いたします。

【障がい児の早期療育について】

・**あおば学園**は、3歳~5歳の障がい児の療育通園施設ですが、定員が30名と少ないため、毎年多くの待機児が出てしまうだけでなく、3歳からの入園が難しい状況にあるそうです。特に障がいのあるお子さんの育ちには、個々に応じた早期療育が必要と言われてはいますが、草加市内には、あおば学園以外の公の早期療育施設が「子育て支援課分室」のみであり、受け入れケース数が少ないことから、松伏町(越谷市の先)や足立区にある施設にまで訓練に通わざるを得ない厳しい状況があるそうです。

21年度には、新さかえ保育園と一体化した“子育て支援センター”の2・3Fに“発達支援センター”がオープンする予定です。現在草加市が「あおば学園」「手をつなぐ親の会」などの意見を吸い上げながら、基本設計・実施設計に取り組んでいるとのことでした。障がいのある子どもない子ども草加市でのびやかに育つことのできる環境作りをともに目指していきたいと思いました。

*市内には、公の療育施設では担いきれない障がい児の療育的保育を支える以下の民間施設があるそうです!

NPO 法人ともにステップ: 944-6672 NPO 法人クローバー: 920-6321

NPO 法人グローイング: 富田 090-5798-9563

【子どもに関する相談受付中! 専門家(弁護士・医師・臨床心理士など)が相談に対応します】

・「**獨協大学 地域と子どもリーガルサービスセンター**」は、子どもに関する相談を子ども、おとなから受け付け、必要に応じて問題解決・改善のための支援を行う機関です。相談活動の一環として、子どもに関する相談に専門家が面談で対応する日を設けているそうです。

*相談は、獨協大学内にある「地域と子どもリーガルサービスセンター」にて1回30分で無料で行っているそうです。

お問合せ・申込み: センター事務局 (TEL048-946-1781)

<http://www2.dokkyo.ac.jp/~kodomoregal/>



【学童保育の現状及び指定管理者制度について】

学童保育の会では、現在“大規模問題・待機児問題”がクローズアップされており、就学後には保育園児が必ずお世話になることもあり、まさに火の粉がふりかかる思いでその現状に耳を傾けました。「学童保育の会」としてはそれらの解決策として、“児童クラブの分割や新設”を市に求めたり“待機児のための自主保育”を行ったりするなど、保護者同士が協力し合いながら運動や活動を進めているそうです。

またもう一つの大きな問題として、“学童保育への指定管理者制度の導入”があるそうです。現在の草加市の学童保育は全部で21ありますが、そのうちの4学童が公立、17学童がNPO法人草加・元気っ子クラブの運営になっています（内訳は、5学童が「指定管理児童クラブ」、12学童が市からの「委託児童クラブ」）。21年度からは新たに公立の高砂児童クラブが草加市直営から指定管理者運営に切り替えられる予定であり、市内の27施設も指定管理更新の時期を迎えます。現在の公募による指定管理者選定の方法では、株式会社等の営利企業の参入も可能となってしまうため、今後は市の方針として公募ではなく随意指定も視野に入れてほしい…などの話も出されました。現在、公立保育園は“当面直営を継続する”とされていますが、今後指定管理者制度導入の可能性が全く無いわけではありません。私たち保育園保護者も、指定管理者制度導入の現状を学び、子どもの育つ環境を守るための具体的な運動につなげていかなければとの思いを強くしました。



【もみの木家庭保育室・さざんか家庭保育室での取り組み】

よくお散歩に出ているそうですが、9名の乳幼児を3名で保育する体制では不十分なため、離乳食を作るスタッフを加配しているとのことでした。また、普段からも保護者との話し合いを大切にしていますが、夏と冬の年2回は個人面談を行っているそうです。現在草加市には16の家庭保育室がありますが、保育室により多少の違いがあるようですので、今後も各保育室の特色などについて伺っていきたいと思いました。

【たくさんの保育施設があるけど保育方針や保育内容の違いがわかりづらい…】

ある子育てサポート団体からは、「お子さんを保育園に預けたい保護者の方に、それぞれの保育園の良さや違いを説明できない…」というお話が出されました。受け入れ年齢や保育時間・料金などの基本的な違いはわかっても、保育園ごとの保育方針などの違いや良さがわからず、選ぶ観点が狭まってしまうとのことでした。一度入園してみればわかるのですが、入園前は?と考えると、確かにうなずけます。今後さまざまな保育園が増えていく状況を考えますと、公立も含めて運営形態にかかわらず保育園に関する市民への幅広い情報提供や特色アピールなどが必要な時代になってきたと言えるのではないのでしょうか。

